食品取り扱いに関する健康衛生情報

営業目的の為に下記の食品を生産、取り扱いもしくは流通させる者：
1. 肉、鳥類の肉、またはその製品
2. 牛乳またはその製品
3. 魚、蟹、軟体動物またはその製品
4. 卵製品
5. 乳・幼児食品
6. アイスクリームまたはそれを使用した製品
7. 焼き物（パン・ケーキ・ビーデ等）に加熱していない中身やのせ物をした製品
8. 調整調味品・鮮生食品・ジャガイモサラダ・マリネド製品・マヨネーズ及び乳化ソース品・食用イースト

これに加え、直接（手でもって）もしくは間接的に必用器具（例えば皿類、ナイフ・フォーク類、その他の作業に必要な器具類）に触れる場合もしくは、

厨房、飲食店、レストラン、社員食堂、カフェ～もしくは、その他の共同給食に従事している者は、

この作業に初めて従事する前に、法第43条第1項の感染予防対策に関する衛生管理を受けてから従事する必要がある。

なぜ特別な予防措置が必要であるか？

上記に記載された食品類は、ある種類の病原菌が特に簡単に増殖しやすい。このような微生物に侵された食品は、人体に食品感染や食中毒を起こし重い病気にかかる。飲食店や共同給食では、これらは大腸感染を起こす可能性が大きい。

このような理由で作業に従事する者一人一人が需要者及び自身自身の保護のために高い自己責任を持ち衛生規定管理をしなければならない。

（衛生管理規定の重点抜書きが添付して掲載してある。）
シグローゼ（赤痢発）

この病原体は、シゲラバクテリアである。通常、人から人へと（手の衛生管理が悪いため）感染するが、直腸炎等の食中毒を伴う例もある。シゲラ菌、赤痢菌は、非常に感染力が強い。ことしは、ほんの少しの亀裂や破損だけでも感染が起こる。突起として高熱が出て頭痛と腹痛を伴う例がある。最初は、水のような下痢を起こすが、そのうちに血液が混じる。この病原体は、ドイツにもある。つまりシゲローゼは、旅行に出るためになく、この発生はいつも起こる感染雑病である。

サルモネラ感染

サルモネラの病原体は、色々な種類があり、これらの病原因が感染した食品（例えば肉、卵、乳、卵、卵）の食品から感染する。サルモネラ菌に感染すると、急激な腹痛を伴う吐泻（吐いたり下痢をしたりする事）があり熱が少しずつ、ただ症状の起始は激しい。

この病原体は、世界中に広がっているので感染は常に起こり得る。また、一番多い時期は、夏季である。

その他の病原因による飲食摂取

またその他のバクテリア類による（例えばぶどう状球菌、特定の大腸菌、カンピロバクター、エンジニア）又は、ウィルスによる（例えば、ロータ、アデノ、ノーウォークなどのウィルス）は、下痢、嘔吐または、腹痛などを引き起こす。

肝炎AもしくはB

病原体は、ウィルスで肝炎AかBのウィルスがついている食品から感染する。またこのウィルスに感染して1から2週間の間、排便と一緒に排泄されるので人から人への感染もある。主に大人が肝臓の肥大、食欲不振、だるさ等を伴う病症にかかる。肝炎Aウィルスは世界で多いが肝炎Bウィルスは、主にアジア、アフリカ、中南アメリカで、（遠方旅行から持ち込まれる感染！）この2つの病気は、良く似た症状で、感染方法も同じである。

肝炎Aには予防接種がある。南の国へ旅行をする場合かならず予防接種を考慮し、かかりつけの医師、会社の医師、もしくは保健所に問い合わせる事。
雇用主／主人への特別な指摘

1. 雇用主も1ページ目に記載された注意書の内容に従う場合、添付1での宣言書を提出しなければならない。

2. 1ページ目の注意書に記載された事項は、添付2による許可書を獲得しているか第18条裏用、戦病法の保健証明書を所有している者のみが就業できる。

3. 最初の就業時に保健所の許可書が3ヶ月を過ぎていてはいけない。

4. 就業を始めたら1ページ目の注意書の内容を行う人物が必用である。さらにその者は、2ページ目に記載された感染対策法の規定を毎年報告し、その報示の参加者を記録する。

5. 自分の証明書及び従業員の証明書又、最終の報示のドキュメントを事務所に常備する。また、従業員は、要請によっては述べている証明書を担当の役場に提出できる様に常にしておかなければならない。仕事の場所変更は、公証人認定のコピー提出で良い。

6. あなた自身か、おそらく従業員の中の2ページ目の注意書に記載された症状が出た場合、医師の診断を受けてこの中に記載された病気もしくは、述べられた病原体の分泌の状態を診療してもらわなければならず。これにより仕事場での病原体の伝播を防ぐ適当な衛生処置を取らなければならない。この件に関しての情報は、食品関係観察機関役所および保健所で入手できる。

7. この報示は、定期的な職人衛生規定の報示を代行するものではない。
感染予防法は、当事者に下記の病気の症状が表れた場合、もしくは、医者が診断した場合には、仕事に従事することが出来ないとしている。
- 急性感染性腸炎（急に発症した伝染性の下痢）でサルモネラ菌、サギラ菌（赤痢菌属）、コレラパルチリア、ぶどう状球菌、カンピロバクター（サルモネラ菌に類似した菌原）、ロータウィルスやその他の下痢を起こさせる病原菌。
- チフスもしくはパラチフス
- ヴィーールス肝炎A か E（肝臓の炎症）
- 当事者が傷を負っていたり、もしくは皮膚病にかかっていてその病原体が食品を通じて他の人に伝染する可能性がある場合。

検便で以下の病原体が表れた場合。
- サルモネラ菌
- サギラ菌
- 腸出血エシェリチア・コリ・パルチリア
- コレラヴィプリオ（細菌）
これらのパルチリアを排出した場合、（自分自身では、病気にかかっていると気づかなくても）食物中毒関係に関する仕事は、禁止される。

下記の兆候は、これらの病気の兆候である。
一日に2回以上の発熱な下痢に吐き気、嘔吐、発熱が伴う事がある。
頭痛、腹の重圧感、関節の痛みと便秘（数日後に下痢が始まる）に伴い高熱が出た場合は、
チフスとパラチフスの兆候である。
古典的なコレラの兆候は、乳白色の下痢と脱水状態である。
皮膚や眼瞼が黄色っぽくなり体がだるく食欲が不振であると肝炎AかEを示唆する。
皮膚病で外傷や口の閉いた傷は、赤味が出ていたり、粘液状の表面が腫れたりすると感染の可能性がある。
上記のような症状が現れた場合必ず隣りつけの医者が診断に応じること！
食品関係の仕事に従事している事を隠さず伝えること。また、すぐ近くあなたの上司にかかった病気に報告する義務がある。

（これらの病気に関してもっと知りたい場合は、添付2を参照して下さい。）

それでは、あなたがこの注意書を読み理解しました。そして仕事の従事が禁じられる事実が無いことの宣言書にサインを御願い致します。（添付1）

口頭での教示の後、使用者もしくは、主人用の証明書をお渡しします。（添付2）
追録 I

食品関係での感染防止対策にあなたは、どのように関与できますか？

答え

一 仕事につく前に体を洗い、新しく仕事を始める場合やもちろんトイレの後は、石鹸を使い水道から水を流しながら手を十分洗う。使い捨ての紙で手を拭く。

一 仕事につく前に指輪や時計を取り外す。

一 清潔な仕事着を着る。（コック帽、手袋、室内履き）

一 手や腕の小さいちょっとした傷は、防水性のカットバンでふさぐ。
追録 II

どのような病気にかかった場合、法的に仕事に従事する事が
禁止されていますか？

腸チフス、パラチフス

この病原体は、サルモネラ・チフィ及びパラチフィである。これらは、主に清潔でない水
や食品から感染する。病気は、高熱が発症し大当てをしてしまうだけで数週間続く。そのほかの
症状は、頭痛、腹痛、関節痛である。他にも便祕になることがある。そのあとには、
「グリーンビースのマッシュ」のような下痢をすることが多い。食事は水と良い食品衛生管
理がされているので地元には、この二つの病原体は少ない。

チフスとパラチフスは、同じ様な状態であるがパラチフスの病状は、チフスより重くない。

この二つの病気は、通例風土性な土地病で（アフリカ、南アメリカ、南東アジア）からか、
または、自然災害や戦争などで衛生環境がドラマチックに悪くなった所へ入りこんだ（旅
行感染）地域より持ち込まれる。チフスに対しては、色々な予防接種がある。職業から、
もしくはプライベートにこのような地域に旅行する場合は、掛かりつけの医者か会社の医
師もしくは、保健所に相談すること。そこで予防接種の相談を受けること。

コレラ

病原体は、コレラバクテリアである。不衛生な水及び食品から侵入する。また、人間から
人間へ直接感染する。通常、嘔吐、腹痛を伴う下痢の症状がある。血便が混入していない
乳白色な下痢である。熱は、必ずしもあるとは限らない。重くなると脱水状態が激しくな
る。（胃が収縮、脱水）この病原体も衛生環境の悪い地方で飲料水が悪質な所（東
アジア、南アメリカ、アフリカ）に発生する。現在ドイツで許可されている予防接種は、
推薦できない。しかし国外では、副作用が少ない、効果ある予防接種がある。インターナ
ショナル薬局で注文可能である。このような危険地域に旅行する場合は、掛かりつけの医
者、会社の医師もしくは、保険所に相談すること。